

大学の知を結集し、地域と共創する未来

埼玉県立大学 学長
林 裕栄

埼玉県立大学では、陶冶・進取・創発を基本理念とし、保健・医療・福祉に関する教育研究の中核となって地域社会に貢献することを使命としています。この使命の達成に向け、研究に関する方針を次のとおり定めます。

1. 新たな保健・医療・福祉ニーズへの的確な対応など、**地域の諸課題や時代の先端を見据えた実用的かつ実践的な研究**に積極的に取り組み、**現場の課題を多面的な視点**でとらえ、解決策を探求・提案します。
2. **各教員が各々の専門分野における研究**（基礎・応用研究など）に積極的に取り組むとともに、文部科学省科学研究費助成金の採択、他機関との連携を視野に入れながら**大型研究費の獲得**を目指します。
3. **産業界、他大学、行政機関等との連携**を充実・強化し共同事業・共同研究を推進します。
4. あらゆる機会を活用して、**研究成果を広く国内外に公表**します。また研究成果は、学内教員や学生などに公開して共有化を進めることで、**学部、大学院の教育研究活動に反映**させます。
5. 行政機関や県民の抱える課題解決のための研究を推進するために弾力的な研究実施体制、また、研究者の能力向上に向けた**研究支援体制の整備**を図ります。

研究開発センターの方針

- 1 学内の研究能力を高めるとともに、研究に関する相談・支援機能を強化する
- 2 外部研究費による大型研究を中心に据えた研究活動を展開する
- 3 高い能力をもつ研究者を配置する

変遷

黎明期

展開期

躍進期

発展期

2017年

教授2名を中心
に学内の研究能
力向上の取組

2019年

自治体と連携した
地域包括ケア推進
の活動

2021年

BCPに照らして
事業を展開
地域包括ケア推進セミナー「地域の
社会資源を知ろう」21回開催

2023年

学内研究活動
の支援強化

2025年

2016年

研究開発センター
設立

- ・地域包括ケアシステム
に関するプロジェクト
研究に取り組む
- ・シンポジウムの開催

2018年

地域包括ケア
推進セミナー
の定期開催

2020年

BCPに照らして
事業を展開

- ・「地域包括ケアマネジ
メント支援部門」設置
- ・「産学連携と研究シーズ」発行

2022年

URA機能の整備
埼玉大学との協定、
「教育・研究・地域連
携の一体的推進事業」

2024年

センター組織の
見直し

- ・先駆的・実践的な研究の
実施
- ・研究費配分並びに研究の
評価及び研究成果の公表
- ・研究活動の支援
- ・研究環境の整備
- ・産学官連携
- ・その他の研究の推進

副センター長ポストの新設

1. **地域格差からみた在宅死の要因に関する研究**を通して、**在宅での看取り**を支える地域包括ケアシステムを構築していく上での課題解決の方策の解明
2. 要介護高齢者が自分らしい生活を送れる**生活行為の向上に関するマネジメント**の研究
3. 自治体や医師会等との連携による地域の実情に即した**在宅医療・介護における多職種連携研修プログラムの開発**
4. 地域包括ケアシステムにおける**薬局・薬剤師の積極的な役割に関する研究**

「2025年,さらに2035年を見据えて地域包括ケアシステムを考える」

日程：平成29（2017）年2月3日（金）13：00～15：40

■基調講演

「人口減少社会を希望に – 持続可能な福祉社会への扉」

広井 良典 氏（京都大学こころの未来研究センター教授）

■パネリスト発表

「地域包括ケアシステムにおける『規範的統合』のあり方」

筒井 孝子 氏（兵庫県立大学大学院教授）

「高齢者のQOD（死の質）を支え、看取る医療のカタチ」

鶴岡 浩樹 氏（日本社会事業大学大学院教授）

「地方創生と社会保障 – 地域ケアへの多元的アプローチ –」

山崎 史郎 氏（元厚生労働省社会・援護局長、前内閣官房地方創生総括官）

■パネルディスカッション

パネリスト：広井 良典 氏・筒井 孝子 氏・鶴岡 浩樹 氏・山崎 史郎 氏

- ◆ 地域包括ケアシステムに関する4つの**プロジェクト研究**を継続
- ◆ 研究開発センターシンポジウムを開催
- ◆ 2018年度から実施する新規プロジェクトの計画を立案
- ◆ 新たに設置された**教授2名**を
中心に学内の研究能力向上の取組

- ◆ 地域包括ケアシステムに関する5つ（継続2、新規3）のプロジェクト研究を実施
- ◆ 研究開発センターシンポジウムを開催
- ◆ 地域包括ケア推進セミナー、地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議の定期開催
- ◆ 研究者支援として「研究支援ゼミナール」の定期開催

■ 基調講演

「地域包括ケアの深化に向けた諸課題と対応策」 埼玉県立大学理事長 田中 滋

■ 第2部 シンポジウム パネルディスカッション

講演1 「地域包括ケアシステムにおける入院医療のあり方」 迫井 正深氏（厚生労働省 大臣官房審議官）

講演2 「多職種連携・協働上の諸課題と対応策 —ケアマネジメントに焦点を当てて—」 川越 雅弘（埼玉県立大）

講演3 「「地域共生社会」の理念と政策展開」 野崎 伸一氏（厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長）

講演4 「地域包括ケアにおけるリハビリテーションの役割 ～私たちの実践～」 齊藤 正身氏（医療法人真正会 理事長）

田中理事長の就任により、埼玉県内全域への地域包括ケアシステム普及のスピードが決定的なものとなった

- ◆ プロジェクト研究（継続4、新規1）の実施
- ◆ 自治体と連携した地域包括ケア推進の活動
 - ・ 受託事業（補助事業を含む） 7 件
 - ・ 研修会「介護人材の確保・育成に向けた諸課題と対応策」
 - ・ 地域包括ケア推進セミナー 2回開催
 - ・ 地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議開催

持続的な連携基盤の構築

自治体・各団体との協定締結により、次年度以降の支援体制を確立

◆ 学内研究支援活動

研究環境の整備；動物実験等に関する規定類の整備

動物実験施設の改修、社会調査室の設置など

セミナー開催を通じた研究者の育成・支援

新型コロナウイルス感染症の影響からBCPに照らして事業を展開 コロナ禍における「研究の進化」とオンライン化の推進

◆ **プロジェクト研究** 3件の継続、1件を中断（2020年） 2件の継続、新規2件（2021年）


◆ 現場を支える『**地域包括ケアマネジメント支援部門**』
を**設置**

- ・市町村支援
- ・地域包括ケア推進セミナー **21回**開催
- ・地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議
- ・シンポジウム「介護者支援の在り方」

◆ **学内研究支援の活動**

- ・URA機能の整備に向けたURAポストアワードの先行配置（大型研究遂行支援部門）
- ・動物実験に関する外部検証の実施（公私立大学実験動物施設協議会）

英語論文は年間**80**編、科研費獲得も目標を大きく上回る**82**件（2021年度）

- ◆ **プロジェクト研究 4件（継続2、新規2）**
教育・研究・地域連携一体的推進事業 3件
埼玉大学との「包括連携協定に基づく共同研究に関する覚書」 共同研究 3件
( **大学間共同研究に関するマッチングや助成制度の整備**)
- ◆ **地域包括ケアマネジメント支援部門**
 - ・市町村支援
 - ・地域包括ケア推進セミナー
 - ・地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議
- ◆ **学内研究支援の活動の拡充**
 - ・ **URA機能（※）の整備、プレアワードを配置し外部研究費獲得支援体制強化（外部資金獲得支援部門）**
※研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事す人材
 - ・研究助成団体からの研究助成金について学内管理規程の整備
 - ・「研究支援ゼミナール」をオンデマンドにて定期配信、「研究推進セミナー」を、オンラインで実施 など

「教育・研究・地域連携一体的推進事業」

事業の目標

1. 教員と学生がともに地域に入り込んだ教育活動・研究活動プロセス自体(対象・内容・成果・実施のための行動等)がその地域における地域連携活動となることができる
2. 学生も教員とともに研究活動に主体的または補助的に携わることで、その研究活動が地域社会への貢献に直結しているという意識を学生自ら育むことができる
3. 学生と教員が一緒に取り組む地域連携の活動地域をアクティブラーニング(課題発見・整理・対策案等の学習・研究)の場とすることができる

研究代表者	研究課題名
理学療法学科 准教授 小栢進也	学生主導による地域高齢者の膝の痛みに対する集団体操の実践 痛み焦点型と運動量焦点型リフレクシヨンの運動効果の違い検証
理学療法学科 助教(現 准教授) 村田健児	埼玉県立大学を拠点とする地域スポーツコミッションの基盤構築に向けた取り組み -障害予防検診からスポーツと健康の教育・研究・活動を実践する
健康開発学科 教授 北畠義典	健康なまちづくり - 地域住民の企画運営と大学(学生を含む)のサポートのあり方-

本日
発表

大学間共同研究の拡大と一体的推進時事業の定着

◆ プロジェクト研究 継続3件、新規1件

教育・研究・地域連携一体的推進事業 3件

埼玉大学との共同研究 4件

◆ 地域包括ケアマネジメント支援部門

- ・「地域包括ケア推進セミナー」・「地域包括ケアを進めるためのネットワーク会議」月1回オンライン開催
- ・埼玉県および県内自治体から受託した事業を実施

◆ 学内研究活動の支援

- ・ URA機能の整備
- ・ 奨励研究費やプロジェクト研究の募集や採択・研究進捗状況の管理
- ・ 学部研究費公募情報の提供
- ・ 文部科学省科学研究費の申請・獲得を支援するためのセミナー開催
- ・ 大学間共同研究に関するマッチングや助成制度の整備
- ・ 「研究支援ゼミナール」8回と「研究推進セミナー」2回開催

◆ プロジェクト研究 継続2件、新規2件

教育・研究・地域連携一体的事業 2件

埼玉大学との共同研究 5件

◆ 研究力向上のための支援活動

- ・ URA機能の整備
- ・ 文部科学省科学研究費の獲得支援
- ・ 研究支援ゼミナール と研究推進セミナー開催
- ・ 大学間共同研究の支援
- ・ 大学内研究費の管理
- ・ 研究関連事業の募集や採択、研究進捗状況の管理

◆ 産学官連携強化に向けた活動

・ 共同研究 **21件**、受託研究 **9件** の調整、契約、管理

・ 知的財産権の申請・管理 **2件** ・ 展示会、マッチングイベント出展など

埼玉県立大学 研究開発センターシンポジウム2024
 開学25周年記念シンポジウム
 ～地域と共に生きる大学～
 2025年 2月15日(土) 13:00~15:45 開場 12:30
 会場：埼玉県立大学 北棟 大講義室346 東武スカイツリーライン せんげん台駅よりバス7分
 どなたでもご参加いただけます！お気軽にご参加ください ※後日、大学ホームページにてオンデマンド配信予定です

◆ あいさつ：学長 星 文彦

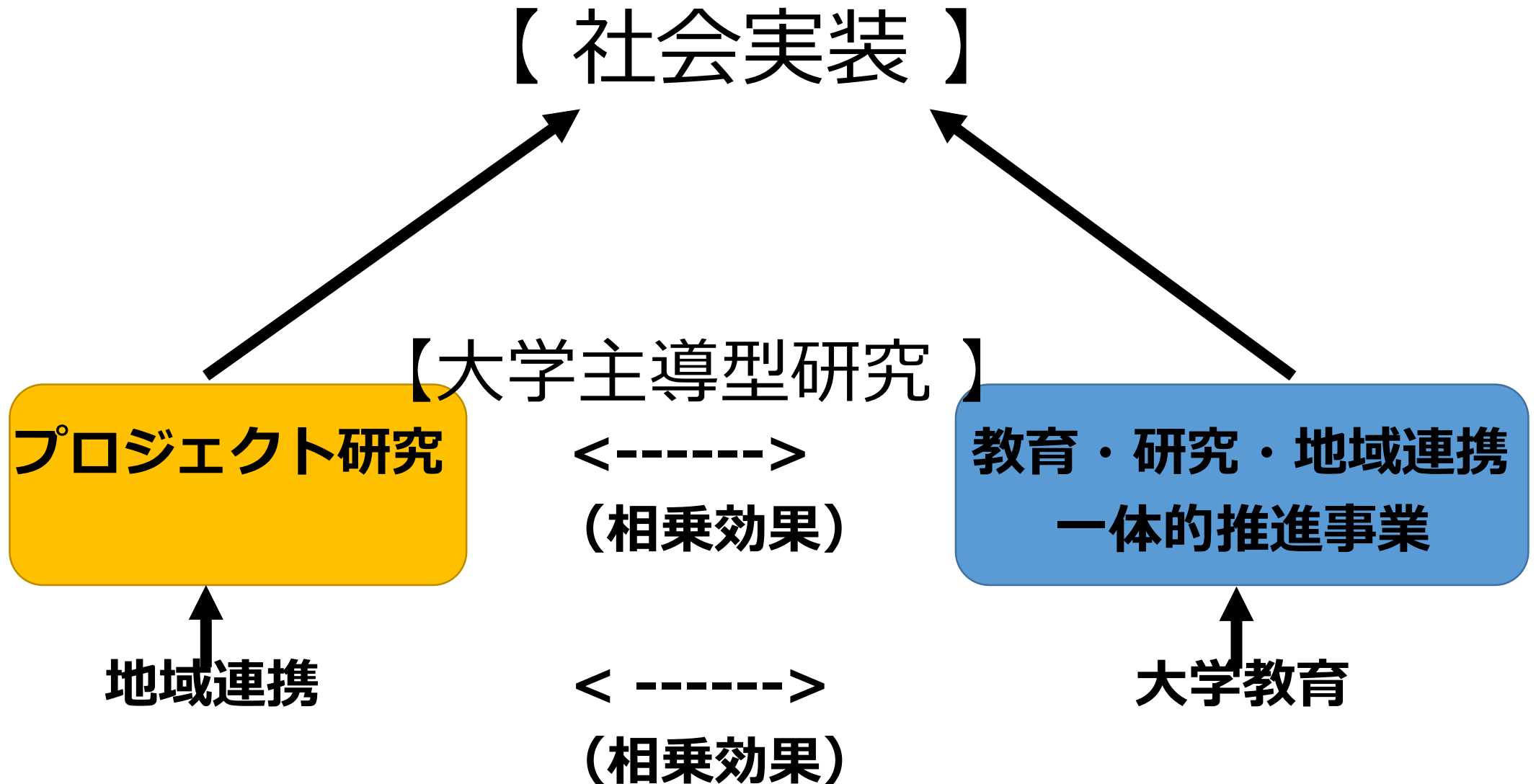
第一部	基調講演 「変わり続ける地域課題に立ち向かう取り組みとは ：2040年に向けて」	13:05~13:30 理事長 田中 滋
第二部	研究紹介 県立大のこれまでの取り組みとこれから① 「通いの場とフレイル予防」 「健やかな妊娠・出産・子育て期を支える 『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修プログラム」	13:30~14:10 健康開発学科 健康行動科学専攻 教授 北畠 義典 看護学科 教授 齋藤 恵子
第三部	市民体験講座 「健康を保つためのストレッチ —実際に体を動かしてみよう—」 「長寿の秘訣：咀嚼力の判定とその重要性 —ガムを噛んでチェックしてみよう—」	14:10~14:30 共通教育科 准教授 八十島 崇 健康開発学科 口腔保健科学専攻 准教授 新井 恵
第四部	研究紹介 県立大のこれまでの取り組みとこれから② 「年を取っても家で暮らし続けるためには」 「変形性膝関節症の痛みと歩容の特徴」	14:45~15:25 地域連携センター 教授 吉田 俊之 理学療法学科 教授 金村 尚彦
総合討論	コメンテーター：埼玉県福祉部地域包括ケア課 課長 今井 隆元氏 越谷市リハビリテーション連絡協議会 / 阿部 高家氏 リハビリテーション天草病院	15:25~15:40

問い合わせ先：研究開発センター ☎ 048-973-4383 (平日 9:00~16:00)
 ✉ research_c@spu.ac.jp

共催：埼玉県立大学保健医療福祉科学学会
 後援：埼玉県、日本地域包括ケア学会、越谷市リハビリテーション連絡協議会

参加費 無料
 お申込みはQRコードからお願いします
 受付 2月13日(木) まで





「地域に特化した保健医療福祉の課題解決」

「政策・実践への直接的な影響」

「地域密着型・社会貢献型」

奨励研究費（学内・競争）

- 奨励研究 S・A
- 科研費コース
- 新任者等コース
- 研究継続支援
- 大学間共同研究

大学主導型（学内・競争）

- センタープロジェクト
- 教育・研究・地域連携事業

研究成果のアウトリーチ

- 高等教育開発センター ← 教育
- IPEセンター ← 地域住民
- 地域連携センター ← 行政
- 研究開発センター ← 産学金



外部資金獲得支援 （プレアワード）

- 文部科研費（年間65件）
- 厚労科研費
- その他公募型研究費

大型研究遂行支援 （ポストアワード）

- 研究コーディネータ

研究推進助成

- 海外大学等派遣研修
- 学術論文公刊費用助成
- 海外研究発表経費助成
- 奨励研究費外部発表経費

2025年

研究開発センター プロジェクト研究

【大学主導型研究】



本日報告

研究代表者	研究課題名
研究開発センター 特任助教 久保田圭祐	越谷市『通いの場』の多職種間連携評価 と介護予防効果の科学的 検証
研究開発センター 特任助教 松本優佳	介護者の業務上疾病予防と安全なケア提供のため の機械学習応用 型移乗介助技能評価システムの開発

「研究開発センタープロジェクト研究」 越谷市『通いの場』の多職種間連携評価 と介護予防効果の科学的検証

地域住民のリアルデータで産学官PDCAサイクルを確立

越谷市地域包括ケア課

介護予防政策の計画 Plan

介護予防政策の
改善提案 Action

埼玉県立大学

介護予防の効果検証
Check

運営 地域住民

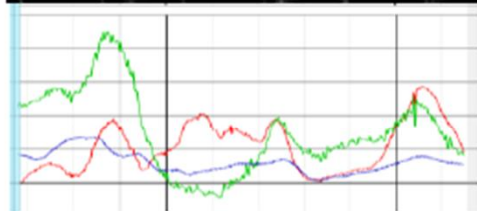
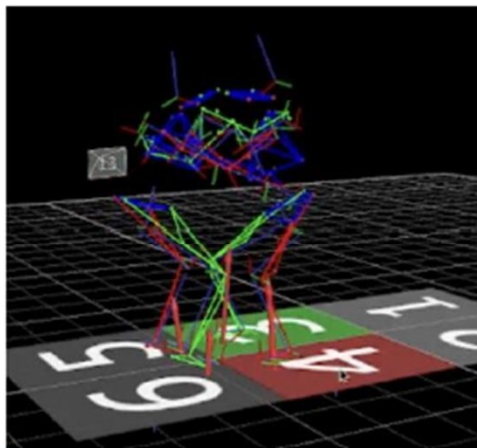
運営協力 越谷リハ協議会

『通いの場』事業
Do



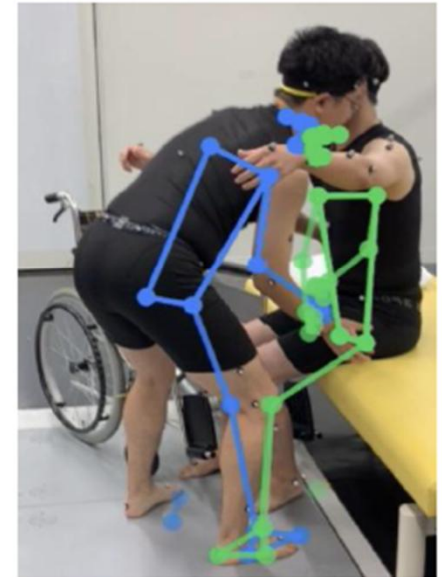
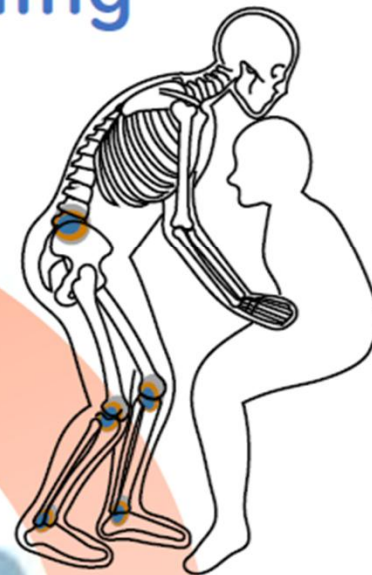
学生のActive Learning

課内・外授業、卒業研究



教員の研究

- 介護予防アプリ
- 介護技能DX
- スポーツ障害
- 地域文化研究
- 教材開発



地域住民の課題解決

- 認知症・介護予防
- 青少年スポーツ
- 子育て支援
- ウィメンズヘルス
- 住民交流
- 多言語意思疎通



共生社会

2025年

「教育・研究・地域連携一体的事業」

【大学主導型研究】

研究代表者	研究課題名
共通教育科 教授 浅川 泰宏	民俗学「七夕ウィーク！」の地域連携展示：学生製作の七夕飾りによる地域社会の非日常的な景観の創出
共通教育科 教授 上原 美子	未来ある子どもたちの心身の健康づくりを支える地域連携プロジェクト
作業療法学科 准教授 上原 栄一郎	埼玉県立大学におけるアントレプレナーシップマインド醸成に向けたプロジェクト(2024年度からの継続)



埼玉大学

共同研究発表会

埼玉県立大学



埼玉大学と埼玉県立大学は、2022年3月に「包括連携に関する協定」を締結し、それに基づく「共同研究に関する覚書」を取り交わしました。この枠組みにより、両大学の研究者による学術の発展と社会貢献をめざす共同研究を、最長2年間支援するプログラムを2022年度から実施しています。本発表会では、これまで2年間にわたって支援を受けた4つの研究チームが成果を報告します。また、2025年度に新たに採択された3チームが研究計画および共同研究に至った背景や経緯を紹介します。両大学の連携/協働によって進められてきた共同研究の取り組みの軌跡を振り返るとともに、今後の共同研究の展望や支援のあり方について見つめなおす機会にしたいと考えています。

2025

10.3 金 13:30~16:40

- 1 特別講演
『脳-腸-微生物相関に基づく消化器心身症非薬物療法—eHealth開発』
濱口豊太（埼玉県立大学研究開発センター長/教授）

2 成果発表

NO	埼玉大学研究者名	所属	県立大学研究者名	所属	研究課題名
1	PUNPONGSANON PARINYA	理工学研究科	小池 祐士	作業療法学科	個別化された補助装置を製造するための3D プリントングパイプラインの開発 (R5) カスタマイズ可能な個人用補助器具を製作するための3Dプリンティングに関する研究 (R6)
2	辻 俊明	理工学研究科	久保田 圭祐	研究開発センター	治療現場へ応用可能な異常筋活動評価システムの開発 (R4~5)
3	岡本 和明	教育学部	小松 睦美	共通教育科	太陽系の生命起源物質の理解に向けた有機物-鉱物-水の相互作用の検証 (R5) 太陽系における生命起源物質進化の検証と地球外試料を活かした学習教材の開発 (R6)
4	大澤 優輔	理工学研究科	久保田 章仁	理学療法学科	地域在住高齢者の着衣嗜好の違いによる、歩数・生体情報・主観的心理への効果 (R5~6)

3 ショートトーク(令和7年度採択)

NO	埼玉大学研究者名	所属	県立大学研究者名	所属	研究課題名
1	乙須 拓洋	理工学研究科	村田 健児	理学療法学科	運動による軟骨変性予防メカニズム解明に向けた細胞機能の検証 -細胞膜流動性の変化に着目して- (R6) 変形性関節症の病態解明に基づく「レジリエント軟骨細胞」の創出 (R7)
2	小林 貴訓	理工学研究科	木戸 聡史	理学療法学科	マスクを用いた呼吸計測手法の開発とスポーツトレーニング・呼吸リハビリテーションへの応用 (R7新規)
3	高橋 朋子	理工学研究科	金村 尚彦	理学療法学科	マイオカインに着目した運動による軟骨変性抑制効果のメカニズム解明 (R7新規)

○共同研究・受託研究の調整、契約、管理

○展示会・マッチングイベント出展

○健康経営への支援

健康経営優良法人認定制度※

※事業所における従業員等の健康に配慮した経営を促進する制度。

「健康経営優良法人」に認定されると、「健康経営優良法人」ロゴマークの使用が可能となる他、自治体や金融機関においてさまざまなインセンティブが受けられる。



**健康経営に関する
県内食品会社との共同研究**

■研究・地域活動シーズ2024-2025

【新規・更新】



保健医療福祉学部

大学院

■ 共通教育科
■ 看護学科
■ 理学療法学科
■ 作業療法学科
■ 社会福祉子ども学科
■ 健康開発学科

■ 保健医療福祉学研究所

埼玉県立大学
SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

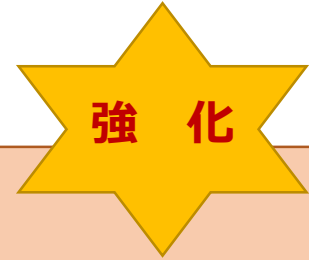


基礎研究から応用研究まで幅広く、テーマも様々
質的研究・量的研究、混合研究など多彩

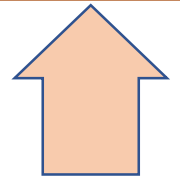
連携と統合 → **多様な教員同士のコラボ**

強 化

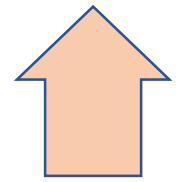
大学主導型の研究



社会実装
「現場を支える人を育てる（養成）」 + 「現場を支える仕組みを創る（実装）」の循環
地域課題を解決する大学発スタートアップ

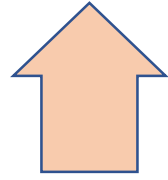


研究成果の効果的な発信



**地域の事業所・企業等
との連携**

**埼玉県・県内市町村
との連携**



大学院生や修了生とともに研究を推進